

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>開設時より「虹の家7つの理念」として掲げ、大切にしている。</p>	
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>職員一同、理念を共有し、朝の申し送り時に、皆で確認の意味を込めて読み上げ、日々実践に努めている。</p>	
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	<p>地域密着サービスとして出来るだけオープンに活動したい事をご家族にはお話しし、「虹の家新聞」を地域の回覧板に入れてもらうことで、地域の人々にもホームの様子を伝え、理念の浸透を図っている。</p>	
2. 地域との支えあい			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	<p>二ヶ月に一度開催する運営推進会議に、区長さん他、地域代表の方々に参加して頂いている。隣保班に加入しており、毎月発行している「虹の家新聞」を代表の方々には直接届け、回覧板で広く地域にも活動の様子を紹介している。</p>	
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	<p>小学校の七夕飾りを見に行ったり、近所で毎年行なわれる納涼祭を楽しんだり、ボランティアや子供、学生等も積極的に受入れ、外部との交流を図っている。また、毎年行なう救命講習会には、地域の方にも参加して頂いている。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	電話での問合せや、入所希望の見学の際は、丁寧な対応を心掛けている。	○	併設の小規模多機能型ホームと連携しながら、介護が必要になっても地域で安心して生活できるよう、近隣の方が気軽に相談できるような施設を目指していく。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	年に一度は、職員が各々自己評価を行い、ケアの質の向上を図る。外部評価で指摘のあった事項については、速やかに話し合い、改善に取り組んでいる。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、利用者様のプライバシーに配慮しながら、利用状況、活動報告等を行い、御家族、地域の方、行政それぞれの意見や提案等を聞き、話し合うことでより良いサービスが提供できるよう努めている。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	書類の提出等は、なるべく直接行くようにしている。会議に出席して下さる担当の方々とも顔なじみになり、困った事がある時には、電話等でも相談にのって頂き、連携できていると思う。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	これまでのところ、該当事例なし。権利擁護に関する研修に参加したことはある。	○	現在、必要性のある対象者はいないが、今後、相談されることも想定し、制度の理解を深める為、職員勉強会を開催したい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待はもとより、身体的・精神的拘束は行なわないと理念にも掲げ、日々実践しているが、自分では気付かずに精神的虐待になる場合もあることを各自認識し、言葉遣いには特に注意するようお互い気をつけている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	主に家族とは十分に話し合い、双方合意した上で、契約や解除を行なっている。利用者様にも不安のないよう説明している。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様とは、日々のコミュニケーションを通じて信頼関係を築き、意見や不満を表出できる環境を整えている。又、なじみの介護相談員や面会者など、外部の方々と自由に話せる機会を設けている。	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ご家族には面会時に日々の様子を報告するほか、変化があった際には電話にて報告し、対応について確認、相談する等連絡を密にしている。月に一度の家族会では、本人の状態報告のほか、お預かり金の出納、担当職員の紹介など行なっている。	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月の家族会のほか、面会等で来られた際に、管理者や職員が意見や不満を聞き取るようにしている。外部の苦情受付窓口について、玄関の見やすい場所に掲示しているほか、ご意見箱も設置している。	
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員提案箱を設置し、意見や提案について職員会議で話し合う他、常時、職員間の意見交換で出た改善案等は主に管理者を通じて速やかに運営者に伝え、反映させている。運営者も、積極的に意見を聞く機会をもつよう努めている。チームワークを良くし、意見を言いやすい環境を整えている。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	入浴時間や通院介助、行楽等外出のある時は、予め職員を多く配置し、十分な対応がとれるよう調整している。夜間の体調急変や救急時には、緊急連絡網で管理者や職員が対応できる体制をとっているほか、併設の小規模多機能型ホームの夜勤者とも連携して対応にあたっている。	
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	新規職員の入職については慎重に検討している、現職員が長く仕事を続けられるよう個々の事情に応じたローテーションを組むなど勤務調整に配慮している。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>経験年数や希望に応じて研修の機会を設けているが、勤務調整の面から回数を増やすのは難しい。職員間で、レベルアップにつながる資料があれば、お互い積極的に取り入れ、回覧するようにしている。</p>	<p>○</p> <p>昨年入職したケアマネ兼の職員が、介護経験も長く知識も豊富なので、スーパーバイザーとして日常的にアドバイスしてもらったり、勉強会の機会が増やせると思う。</p>
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>地域密着型サービス連絡協議会に加入しており、定期的な会合や資料で情報収集や意見交換を行い交流に努めているほか、市が主催する介護事業者向けの会合等にはできるだけ参加している。</p>	<p>○</p> <p>管理者だけでなく職員が他施設を見学させてもらったり、職員同士が交流できる機会を増やせるようにしたい。連協主催の見学研修には、今年度中、参加する予定である。他施設で1日ボランティアをしては、という職員意見もあり、皆、前向きである。</p>
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>チームワークを大切に、言いたい事がいつでも言える環境整備に努め、休日等も十分とれるよう配慮している。定期的に現場にも入り、職員各自と直接話し、生き生きと働けているか確認している。</p>	<p>○</p> <p>以前は食事会を行っていたが、最近行っていないので、また定期的実施するようにしたい。</p>
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>運営者は、管理者と連携して個々の実績等を把握していると共に、ケアに関してのそれぞれの意見等も出来るだけ取り入れている。又、勤務に関しても職員の都合等を聞き、個々の事情に合わせた勤務ができるよう努力している。各資格取得の奨励もしている。</p>	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>ご利用開始前に面談する機会を設け、できるだけご本人の希望を聞き取るように努めている。</p>	
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>ご家族からの話をよく聴き、プライバシーに配慮しつつ情報収集を行い、利用者様や家族の思いを汲み取るように努めている。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の希望を第一に考えて対応している。家族には、他の介護サービスについての情報も提供し、本人の状態と家族の事情を考慮し、最善策がとれるよう努めている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	できればご本人にも入所前にホームを見ていただき、本人、家族共に安心して入所を決定されてから、サービスを開始している。	○	体験入所等も行なってみたい。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	お一人ひとりを人生の大先輩として尊重し、生き生きと活躍できる場を提供できるよう取り組んでいる。	○	利用者様がありのままの生活をしながら、自然に能力が発揮できるような介護の実践を行なう。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族の中での利用者様の存在価値を知り、家族とホームが一体となり本人にかかわっている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	入所前の生活歴や家族間の情報を収集し理解に努め、今後の関係が良好に築け、保てるよう支援している。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会は随時受入れ、外出、外泊も自由にして頂き、関係が途切れないようにしている。ご家族にも、可能ならばその機会を増やして頂くよう働きかけている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	仲のよい人や気の合う人同士が交流しやすいよう、席順を設けたり、外出や共同作業等を通じて仲間意識が持てるよう配慮している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	先方の都合に配慮しつつ、退所先を訪問してその後の様子を伺う等、できる範囲で取り組んでいる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のかかわりの中で、本人の希望や思いを聞くようにしており、生活の様子や言葉の中からニーズを把握し、アセスメントしている。 家族には、どんな事でも言ってもらえるよう働きかけている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	保管されている情報提供表は常に確認して把握し、不明な点は他機関に問い合わせるなど情報収集に努めている。	○	生活暦にはご家族にも不明な点があるので、日頃から気付いた事はこまめに記録し、情報の掘り起こしを続けていく。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	ケア記録、申し送りノートに記録し、全職員で共有する。定期的にケアカンファレンスを行なっている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人本位の介護計画となるように、アセスメントの段階から本人を中心に据えている。家族の意見も取り入れ、カンファレンスで再検討し、計画を作成している。	○	本人、家族、職員と三者のかかわるカンファレンスの開催を行ないたい。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	見直しは定期的に行い、特別変化があった際には、日々の申し送りで話し合い、又はこまめにカンファレンスを行い、計画変更を行なっている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録を申し送り、実践の際、気づきに活用している。更に個別支援経過として職員会議で検討し、介護計画の見直しに生かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	満床時、緊急性のある待機者には、併設の小規模多機能型ホームのショートステイ利用等を提案している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	市のボランティアセンターに、家族会での演芸慰問ボランティアの紹介をお願いしている。消防署の協力で、防災訓練や救命講習を行なっている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	介護タクシーの手配等、必要に応じ支援している。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	現在まで、事例はなし。	○	今後、必要に応じて協働していく。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人と家族の希望をもとに「かかりつけ医」を決定し、定期的な往診や受診で適切な医療が受けられるよう支援している。医師には状態をよく伝え、情報交換することで医療との連携を図っている。状態の変化がある時は、ご家族とも随時相談している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	プライバシー保護に配慮したコミュニケーションを行なっている。「虹の家新聞」の掲載もご家族にプライバシー保護の確認を行なっている。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	個々のレベルに合わせて感情表現の方法を見極め、思いを受けとめるように努めている。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのその日の状態やペースに合わせた過ごし方が出来るよう支援している。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	一人ひとりの好みを重視した身だしなみやお洒落ができるよう支援している。隔月の訪問理容サービスを、希望者が利用されている。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	季節のメニューを取り入れ献立を皆で考えたり、食材の下準備や調理に参加して頂く他、食後の下膳やテーブル拭き、食器拭き等、片付けも一緒に行なうようにしている。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	コーヒーや養命酒等、個別の嗜好品を用意し、希望時にお出ししている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェック表に記録して排泄パターンを把握し、時間を見て声かけや誘導することで、排泄の失敗を未然に防ぐよう支援している。排泄用品も状態の変化に応じて使い分けている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	安全にゆっくりと入浴を楽しんで頂く為、入浴日(月水金の午後)は職員を多く配置している。順番は希望を優先させ、菖蒲湯やゆず湯等、季節の薬湯の他、入浴剤で温泉気分を楽しんで頂くなど工夫している。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	居室や共有スペースで、各々が居心地のいい場所で午睡したり、日中、日光浴や運動を促すことで夜間良眠できるよう支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの希望や能力を活かして、日々楽しく過ごせるように、レクリエーションを検討、支援している。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の状態を見てご家族と相談し、お小遣いとして一定額をお預かりし、ホームで管理している。	○	買物外出の機会を設け、管理はできなくとも、「使う」場面を提供できるよう支援していく。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ドライブ、買い物、散歩等、職員と出掛けるようにしているほか、家族との外出の機会を増やすよう支援している。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	群馬の森や、ららん藤岡、みかん狩り、大型ショッピングセンターでのお買い物等を企画し、楽しんで頂いている。初詣、お花見、神社のお祭り等、季節の行事も楽しまれている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話については、ご家族の都合も考慮しながら必要に応じて支援している。手紙は、書きたがらない、代筆の希望もないが、受け取る事はあり、皆さん喜ばれている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会時間等は設けず、いつでも受入れている。希望に応じて居室や共有スペースでゆっくり過ごせるよう配慮している。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体的拘束は行なわない事を理念に、ケア方法の工夫により安全な支援を検討し、実践している。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は、玄関と中央口の鍵はかけない。両所の開放時には音がするようになっており、利用者様の動きを把握できる。出たい様子があれば可能な限り付き添って行くが、不穏時等、危険のある時はご家族の了承の上、一時的に施錠することもある。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員間で連携し、必ず見守りを行なっている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	一人ひとりの状態に応じ、ご家族とも相談しながら、危険を防ぐ対策を立てている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	一人ひとりの行動パターンを把握して危険予測をたて、ヒヤリはっと報告書も活用しながら、事故の防止に取り組んでいる。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	毎年、救命講習会を行なっている。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	定期的に、防災避難訓練を利用者様と行なっている。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	あらかじめ予測されるリスクに関しては、ご家族に説明し相談の上、対応策を決め、又、随時、検討している。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	日々の観察記録は、全員で共有しており、変化や異変に気付いた時には、速やかに管理者に報告、必要に応じてご家族やかかりつけ医と相談の上、対処している。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別の薬ファイルで、処方された薬が一覧できるようにしている。薬の補充や追加、変更等があった時には、必ず申し送り、皆で共有、症状に変化がないか確認している。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	食事内容の工夫、起床時に冷たい牛乳を飲んで頂く、日中の運動や排便習慣をつける働きかけ、腹部マッサージ等を行い、予防に努めているが、慢性の便秘の方には、医師と相談の上、便秘薬も使用している。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、一人ひとりの状態に応じ、歯磨きの支援を行なっている。夜間は義歯を外し管理、日曜日は入歯洗浄剤にて消毒している。訪問歯科診療も、必要に応じて受けている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事と水分の摂取量をチェックし、記録している。水分摂取を拒否する方には、飲み物の工夫やこまめに摂取して頂く等、配慮している。栄養状態により、栄養補助食品も、医師と相談の上、取り入れて対応している。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	うがい、手洗いの励行、手洗い後はペーパータオルを使用している。研修を受けた職員を中心に予防、対策を実行している。インフルエンザの予防接種は、毎年、利用者様、職員全員が受けている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食材は新鮮な物を使用し、管理にも気を付けている。まな板、布巾等の消毒はこまめに行い、食器は洗浄後、熱湯消毒する等、衛生管理に努めている。調理場のエプロンとスリッパは、ホール用と別にしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	これまで庭や菜園作りに、利用者様、御家族、地域の人達、皆が参加して下さったので、親しみやすくなっていると思う。玄関アプローチには花を植え、日中は玄関と中央口の鍵はかけないなど、入りやすいようにしている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じた空間の飾り付けを利用者様と行い、居心地よく、楽しく過ごせるよう工夫している。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	各々、自分の気に入りの場所を持っており、居心地よく過ごされている。気の合う人同士と一緒に過ごせるよう配慮している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や、愛着のある人形、大切な人の写真、鉢植え等ご本人が大事にしている物があり、居心地よく安心して過ごせるよう配慮している。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	トイレの臭気には特に注意し、居室や共有スペースは利用者様の様子や室温に配慮しながら換気を行なっている。温度計や湿度計を活用し、季節感も損なわないよう温度調節に努めている。冬季は乾燥に注意し、加湿器を使用している。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	共有スペースには手すりが設置され、安全に移動できるよう活用されている。ホールや各居室の物の配置は、常に安全に配慮している。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	一人ひとりの状態に合わせた環境整備で、日常生活動作が自立しやすいように工夫している。安心して生活できるよう見守り、支援方法も個別にしている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	庭でお茶を飲んだり、日光浴できるように、椅子とテーブルを設置し活用している。庭や菜園を整備して、花や野菜の手入れ、収穫が楽しめるようにしている。		

V. サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

虹の家では理念のほか「目配り、気配り、思いやり」を大切に、利用者様にはいつも誰かが側にいる安心感を持ってもらい、ご家族にはご本人への思いを共有しケアすることで、安心して今の生活が続けられるよう支援をしています。また、毎月第3日曜日には家族会を催し、皆で誕生祝いをしたり、季節の行事を行い、交流の場としています。